2009
No. 9
May

メディカルネットワーク

発 行 東京女子医科大学東医療センター　〒116-8567　東京都荒川区西尾久2-1-10
電話03-3810-1111 FAX03-3894-0282 http://www.twmu.ac.jp/DNH/index.html

病院長就任のご挨拶と心臓血管診療部のご紹介

内科　教授　大塚　邦明



大学病院としての自負のもと、診療・教育・研究の発展に努力して参ります。また、社会に貢献する心を忘れないよう、職員や学生を、指導してゆきたいと思います。

病める方の立場に立って、病める人の「語り」を聴くこころを持つことを指導して行きます。近年、確率論を重視したエビデンスに基づく医療が治療方針の基幹になっていますが、疾病が個性的であればあるほど、エビデンスの当てはまる確率は低下してゆきます。このようなとき、病める人の「語り」に耳を傾けることこそ必要です。このことを当院の基本姿勢として診療にあたりたいと思います。

一見すると健康であるかのようにみえる未病や仮面病を、早期に発見し予防するという取り組みの一環として、市民公開講座のようなものを、定期的に開催したいと考えています。

また教育面、研究面におきましても、東医療センターに独自のスタイルを造りあげたいと思っています。その第一歩として、このたび心臓血管診療部を新設いたしました。

心臓血管病を専門とする、内科医・外科医・小児科医が共同で働き、そして医師・看護師・薬剤師・理学療法士・ソーシャルワーカー・栄養士が協同して、医療に携わることができる場となり、医学生や看護学生が心臓血管病を新しい視点から学ぶことができる場になることを、心から願っております。

東医療センターでは、城東地区地域の基幹病院として、地域に密着した医療システムの構築を目指して参りますので、どうぞご支援下さい。



（上空から見た東医療センター）

副院長就任のご挨拶

輸血部　教授　和田　恵美子



日頃皆様方には患者さんをご紹介いただき、また診療のご協力をいただきありがとうございます。

私は昭和４５年東京女子医科大学を卒業後、東医療センター（旧附属第二病院）の小児科に入局し、主に小児の血液疾患をみてまいりました。

平成元年から輸血部部長、平成１９年から周産期新生児診療部部長を兼ね、本年３月やっと念願のＮＩＣＵ６床から９床、ＧＣＵ１２床から１８床と増床工事が完了しました。

幸い４月から周産期新生児診療部長として気管内視鏡のエキスパートである長谷川久弥先生と数人の新生児専任医師を迎え、遣見准講師、小児科、産科からの研修医に加わりスタッフも充実してきました。

これで地域からの新生児搬送依頼にもう少し応えることができるようになります。医療をとりまく環境は厳しい状況が続いています。医療経済、医療倫理問題、医療訴訟など怒涛のように押し寄せていますが、まずは医療者と患者との信頼関係を取り戻すことが、よりよい医療を作っていく鍵と考えています。互いに相手に寄り添う気持ちを大切にしたいものです。地域に密着して育てていただいた温かい病院作りを今後も心がけていきたいと念じております。



（槍ヶ岳）

副院長就任のご挨拶



外科 教授　小川 健治

本年度から、東京女子医科大学東医療センターの副院長を拝命いたしました。

この未曾有の経済不況と危機的な医療崩壊のなか、浅学非才、経済・経営感覚もない私に副院長の大役が務まるか…、私自身大変危惧しております。皆様方のお力添えをいただき、病院長の支えとなるよう、何とか頑張っていきたいと考えております。どうかご指導、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

医療崩壊、聞き慣れた言葉になりましたが、原因は医療費の抑制と医師不足、そしてこれらは互いに鶏と卵のような関係にあります。医療費の抑制、私の感覚では「医療費亡国論（このままのペースで医療費が増大し続ければ、国民の負担も増え、社会の活力も失われてしまうため、医師数の抑制が必要とする説）」が発端と思います。これは１９８３年に当時の厚生省保険局長が発表したものですが、これ以降、医学部の定員は削減され、先の小泉医療改革もあって日本の医療は崩壊、今の状況となりました。私たち東医療センターも例外ではなく、医師不足、看護師、薬剤師などコメディカル不足の状態です。

私が副院長を拝命してまず考えたことは、この人材不足対策、つまり人材の確保と育成という問題です。

日本中が直面している難しいテーマですが、それには第一に労働環境の改善や職員満足度の向上に繋がる方策が必要と考えています。安全でやりがいのある職場作り、働き易い職場作りを目指すことでしょうか。そして安全で余裕のある医療、皆様にご満足いただける医療に繋げていきたいと思っています。

第二は研修医教育の充実です。卒後臨床研修センター長も兼任いたしますので、いま東医療センターにおります４０名の若い初期臨床研修医の教育・育成にこれまで以上に力を入れたいと考えています。

医師不足の今日、彼らは大きい戦力です。二年間の研修終了後、少なくとも半分以上が東医療センターに就職してくれれば…と願っています。

私は、今年の外科医局の目標に「Laugh Love Life（３L）」を掲げました。対患者関係、対人関係とも、笑って、愛して、和やかに。そして患者さんの生命を救い、その質(quality of life；ＱＯＬ）も向上させましょう。さらに、自分たち外科医のＱＯＬ向上にも取り組みましょう…という目標です。

東医療センター全体も同じと思っています。病院職員一同、この「３Ｌ」の精神で、安全、確実で余裕のある医療、皆様にご満足いただける高度な医療を目指して頑張りたいと考えています。

皆様方のご指導、ご鞭撻、ご支援を重ねてお願い申し上げます。

乳腺診療部の開設にあたって

乳腺診療部 部長 小川 健治

乳癌は、わが国の女性のがん罹患第１位で、年間約４万人が発症し、１万人以上が死亡しています。

年齢調整罹患率もこの２０年で約２倍になりました。今や女性の２０人に一人は乳癌に罹るとされ、死亡率も増加傾向にあります。さらに、３０代後半から４０代、５０代の罹患が多い。これは女性が家庭や職場でもっとも必要とされる時期にあたり、その闘病は大きな負担、社会問題ともなりそうです。

他方、欧米では、乳癌死亡率は１９９０年以降低下傾向で、その理由の一つに乳癌検診の徹底があげられ、わが国でもより精度の高い乳癌検診の普及が望まれ、国をあげての取り組みが必要といわれています。

こうした背景から、私ども東医療センターも、乳腺疾患をより専門的に診断、治療する独立した診療部門として乳腺診療部を開設致しました。合理的に、高度で安全な乳腺診療を行うこと、検診を充実させること、スタッフの専門性をより高めることなどが目的です。

スタッフは従来の外科乳腺グループが主体で、私（部長、外科兼任）のほか、准教授 清水忠夫（副部長）、講師　平野　明、上村万里、道本　薫（癌研究所有明病院出向中）、金　直美の計６名、昨年１１月からスタートしています。

この外科乳腺グループの今までの実績ですが、外来部門としては東医療センターと日暮里クリニックを合計して１週あたり２００名程度の外来患者を診察し、入院では東医療センターで年間約１６０件の手術を行っています。さらに八千代医療センターも支援し、その乳腺外科部門で外来、手術を担当しています。



（白馬岳大雪渓）

また、患者さんにうかがいますと、未だに「乳腺は何科にかかったらいい‥、外科？、婦人科？」などの戸惑いがあるようです。

新しい乳腺診療部となり、乳腺科を標榜することで、患者さんの分りやすさや利便性は向上します。こうした不安も解消すると期待していますが、まずは患者さんに満足いただける治療の提供、気軽に検診を受けてもらえる環境作り…などを目ざし、一同で頑張っていきたいと考えています。

皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

この乳腺診療部の詳細につきましては、ホームページをご参照下さい。

部長就任のご挨拶



検査科 教授　加藤 博之

平成２０年１１月１日付けで東京女子医科大学教授を拝命いたしました検査科の加藤博之と申します。

地域の先生方には、検査科ダイレクトを通じて常日頃お世話になりましてありがとうございます。

東医療センター検査科は、光学診療部、超音波診断部、生理検査部および検体検査部の中央部門を統括する役割を担っている伝統ある科であり、その部長ならびに教授に就任しましたこと、身に余る光栄と責任の重さを痛感しております。これからも検査科の業務を通じて病院内の連携、地域医療連携が円滑に行きますよう努力していく所存でございますので宜しくお願い申し上げます。

検査科ダイレクトオーダーシステムは、地域医療を担う先生方から地域連携室を通じて直接検査科に予約できるシステムです。上部、下部内視鏡検査ならびに内視鏡的治療のための診察、超音波検査、生理検査等オーダーでき、迅速で正確な検査結果を先生方にフィードバックさせて頂きますので、これからも是非ご利用いただけたら幸いです。

また、当院検査科では、本年２月よりカプセル内視鏡検査を導入いたしました。２６㎜×１１㎜のカプセルを服用するだけで全小腸の内視鏡検査が行えます。上部、下部内視鏡検査で責任病変が見つからず、小腸疾患が疑われる患者さんが適応でありますので、検査の必要な方がいらっしゃいましたら、“カプセル内視鏡のための診察”で地域連携室より予約いただけたら幸いです。

今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます.



図１ギブンイメージ社のカプセル内視鏡

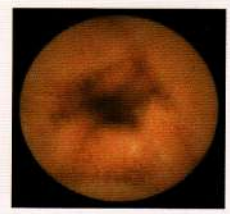


図２小腸の正常内視鏡像（50歳男性）

部長就任のご挨拶とNICUのご紹介



周産期新生児診療部
講師　長谷川 久弥

この度、平成２１年４月１日付をもちまして、東医療センター周産期新生児部門を担当させていただくこととなりました。

私は大学卒業後の小児科研修を、当時の第二病院小児科故草川三治教授のもとで行わせていただきました。その後、新生児研修のために１年間のつもりで行った松戸市立病院新生児科に、結果として２４年間勤務しました。今回は２４年ぶりの里帰りということになります。

専門は新生児・小児呼吸器疾患で、特に気道病変に対する内視鏡診断・治療、呼吸機能検査などを主に行っています。

東医療センターＮＩＣＵは平成１６年４月１日に開設され、ＮＩＣＵ６床＋ＧＣＵ１２床＝１８床で運営されていました。しかし、この規模では地域の需要に応えることができず、運営および医師の研修の上からも規模を拡大する必要がありました。

今回、第１期拡充工事として、この４月よりＮＩＣＵ９床＋ＧＣＵ１８床＝２７床に増床になりました。

南病棟が建設され、第２期拡充工事終了時には、ＮＩＣＵ１５床＋ＧＣＵ３２床＝４７床となり、都区内でも有数の規模のＮＩＣＵになる予定です。

周産期医療はベッド不足、医師不足などから危機的状況にあります。

当ＮＩＣＵが地域の需要に応え、東京北東部の要として、十分な機能を果たせるよう努力していきたいと思います。

新生児・小児呼吸器疾患に関しては、病院各方面のご協力を仰ぎ、全国から目標とされる施設を目指したいと考えています。

ご協力をよろしくお願いいたします。



（増床されたNICU）

部長就任のご挨拶



麻酔科 教授　小森 万希子

このたび、川真田美和子教授の後任として、麻酔科部長を拝命いたしました。

麻酔科の業務は手術室、ＩＣＵ、ペインクリニック外来です。手術室では、手術を受ける患者さんの麻酔管理を行い、手術後の疼痛緩和にも力をいれています。

当院のＩＣＵは集中治療学会認定施設であり、侵襲の大きな手術をした患者さんや重症合併症をもつ患者さんの術後管理、そして重症患者さんの全身管理を他科の医師や看護師、臨床工学士、その他のスタッフと協力して行っています。ペインクリニック外来では、ペインクリニック専門医の資格を取得した医師が、整形外科領域の慢性疼痛、帯状疱疹の痛み、癌性疼痛などに対して、神経ブロック、薬物療法、理学療法などの除痛治療を行っております。

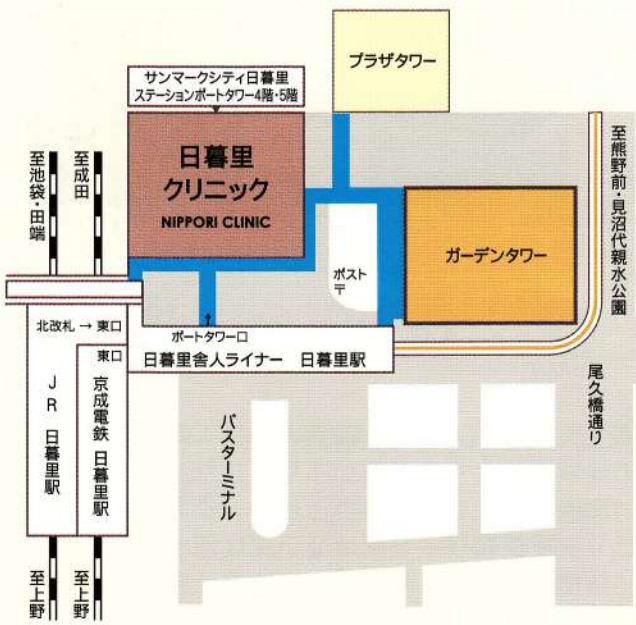
麻酔科は特殊な専門医療ですので、患者さんご自身が最初に麻酔科を受診されることはほとんどありませんが、病院内各科の依頼、協力はもちろん、地域の医療機関との連携により、地域での麻酔科診療のお役に立てれば幸いです。

手術においては安全な麻酔管理を施し、ＩＣＵでは質の高い集中治療を行い、ペインクリニックにおいては安心して痛みの治療が受けられるよう心をこめて努めますので、何卒ご支援ご協力をお願いいたします。



（雲ノ平山荘と水晶岳）

日暮里クリニックのご案内



□JR日暮里駅からの道順

日暮里駅北口改札を出てから、東（右方向）に出てください。
東口に出たら左方向に携帯電話販売店がありますので左脇の入口よりお入りいただき、エレベーターを利用して４階までお越しください。

□日暮里・舎人ライナーからの道順

ＪＲ日暮里駅方向の改札を出てからすぐ右側に階段とエレベーターがありますので２階まで降りてください。
２階に降りましたら、左側にステーションポートタワー口の連絡橋があります。渡っていただくとビルの３階に出ますので階段、エレベーターをご利用いただき４階にお越しください。

● **受付時間**
平　日　8:20～11:00
　　12:00～15:00
土曜日　8:20～11:00

● **予約電話受付時間**
平　日　8:20～17:00
土曜日　8:20～12:30
※予約専用電話にお願い致します

代表電話
03-3805-7771
※予約専用電話
03-3805-7772
※5階美容医療専用
03-3805-7773

● **休診日**
日曜日・第3土曜日・祭日・振替休日、
本学創立記念日12月5日（休日の場合は翌日）
年末年始（12月30日～1月4日）

お知らせ

第14回「城東地区医療連携フォーラム」
日時：平成21年６月27日（土）午後３時より（予定）
場所：ホテルラングウッド
荒川区東日暮里５-50-５
ＴＥＬ03-3803-1234
講演：心臓血管診療部・乳腺診療部の
あゆみと現状など（予定）
お問い合わせ先：地域連携室　内線6151又は
業務管理課　内線4433

編集後記

ＷＢＣは戦前から言われていたとおり、決勝は韓国。その決勝戦では拍手したり、ため息ついたりで非常に疲れた方も多かったでしょう。ひとりひとりの最高の技術とチームが一丸となった結果が世界一となり、暗い話題ばかりのニュースのなかで一光を投じて、早くも１ヶ月が過ぎました。

当院では各科の心臓血管病を専門とする医師が連携し、チームで医療の提供ができる心臓血管診療部と乳腺診療部を開設し、さらに、周産期新生児診療部では周産期医療ベッド不足解消のため、９床を増床し、ＮＩＣＵ（９床）＋ＧＣＵ（１８床）＝２７床になりました。また、日暮里クリニックではウエルエイジングドックのコースＡとコースＢ以外にコースＣとコースＤを新設いたしましたので、それぞれご紹介いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

次回の発行は平成２１年１１月を予定しております。

（地域連携室　古賀）